

【教育活動の名称】 人権講演会
いじめバスターズ宣言の改定

【学校名】 米原市立 大東中学校

1 本校の概要

本校は、米原市の中央部の位置する全校生徒 240 名の中規模校である。校舎の南に位置する三島池は、桜や紅葉の名所であり、伊吹山と水鳥の風景を楽しむことができる自然豊かな環境となっている。

学校教育目標「心を鍛えよ 体を鍛えよ 頭を鍛えよ」は、生徒はもちろん保護者にも非常に認知度が高い。

2 取り組んだ内容

(1) 人権講演会の開催

5月27日に開催した人権講演会には、約25年前に娘さんをいじめによる自殺で亡くされた小森美登里さんにお越しいただいた。「誰かの相談にのれるスポンジのような人になりたい。」「いじめられる人に原因がありますか。そこに理由があれば人が人を傷つけていいのでしょうか。」「やられたらやり返すは本当に正しいのでしょうか。」「幸せな人生を送るのか、人を傷つける人生を送るのか、私たちはみんな自由な翼をもって生まれてきた。」等、お話しいただいた一言一言が生徒の胸に突き刺さるものであった。

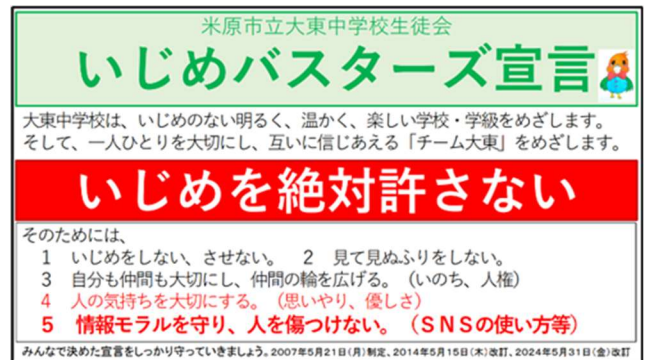
後半には SNS によるいじめや情報の拡散について、「その情報が本当かどうかを考える癖をつける。」「本当に人に伝えなければいけない情報かどうかを考える。」等のヒントもいただき、生徒会で進めているいじめバスターズ宣言改定の取組のヒントとなった。

お話の中で何度も出てきた「生まれてきてくれてありがとう」の言葉は、私たちの命はかけがえのないものであることを深く印象づけるものであった。

(2) いじめバスターズ宣言の改定

5月31日の生徒総会で、10年ぶりにいじめバスターズ宣言を改正した。昨年12月の人権週間の中で、当時の3年生から「SNSのトラブルが増えている中、『いじめバスターズ宣言』にSNSに関する言葉を追加して、全校で意識をした方がよい」との意見が出たことが宣言見直しのきっかけとなった。それを引き継いだ現在の生徒会で何度も議論をし、生徒総会での提案となった。

提案した生徒会本部役員は、「この宣言を行動に移すことが大切」と訴えた。また、「SNSの使い方には、責任と相手に寄り添う気持ちが必要であることをみんなで考えていきたい」と述べ、SNSを活用する上で留意すべきことについて、全校で一緒に考える時間となった。改定されたいじめバスターズ宣言は次にとおりである。



3 活動の成果

いじめ対応で最も重要なのはいじめ防止の取組であり、いじめ防止に向けた生徒の主体的な取組は大きな意義がある。今回、現生徒会役員が、先輩から引き継いだ「いじめバスターズ宣言改定の取組」を何度も議論を重ねながら進めてきたことで、いじめについて考える空気が学校全体に広がった。1月に実施した学校評価アンケートでは、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の質問に対して98%の生徒が肯定的な回答をした。

また、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。」の質問に対して肯定的な回答をした生徒は7月実施の同アンケート結果と比べて4.2pt増加して70.3%、「困ったときに安心して相談できる友達がいる。」の質問に対する肯定的な回答は、5.2pt増加して91.6%であった。一連の取組を通して、学級や学年、学校が生徒たちにとって安心して自分の力を発揮できる場に変化してきたものと捉えている。

改定されたいじめバスターズ宣言は、生徒会本部役員の発案のデザインで看板にし、校舎内3箇所に設置している。今後もこの取組を形骸化させることなく、大東中学校の伝統として継承していきたい。